

創立60周年記念誌

こ さ か



金沢市小坂公民館

金沢市小坂公民館 創立六十周年記念誌 目次

発刊のことば 創立六十周年を迎えて	1
小坂公民館館長 谷村 昭雄	2
祝 辞	2
金沢市長 山野 之義	
金沢市教育長 浅香久美子	
小坂校下町会連合会々々長 駒崎 稔	
石川県議会議員 中村 勲	
石川県議会議員 米澤 賢司	
金沢市議会議員 田中 仁	
小坂校下町会位置図	5
小坂公民館創立六十周年記念式典・祝賀会	6
小坂公民館の組織・運営	8
年間行事	9
各種教室紹介	10
校下各種団体紹介	12
小坂校下町会連合会・小坂地区社会福祉協議会	
小坂地区民生委員児童委員協議会	
金沢市立小坂児童館・小坂交通安全対策協議会	
町会紹介	19
小坂第一町会・小坂中町会・小坂三ツ屋町会	
小坂親和町会・東金沢町会・御所町会	
大樋南親町会・神宮寺二・三丁目町会	
神谷内本町会・神谷内中町会・神谷内西町会	
神谷内葵町会・新葵町会・三池町会	
高柳町北親会・神宮寺イトーピア町会	
神宮寺町みどり町会・ゆいの里町会	
ガーデンシティ東金沢町会・アテリア鳴和町会	
小坂公民館略年表	29
歴代役員・歴代各部長	31
歴代運営審議会委員	32
公民館表彰受賞者	34
あとがき	



金沢市民憲章

金沢を愛するわたしたちは、兼六園の四季のいろどり、犀川・浅野川の清い流れ、山や街の豊かな緑、かおり高い伝統文化を誇りとし、希望と活力にみちたはたらく基盤と、創造性あふれる教育・文化の華さくまちづくりにつとめます。

- 1. ひらこう 世界と未来に 心の窓を
- 1. めざそう いきいきと明るい 暮らしの創造を
- 1. まもろう 美しい心と ふるさとの自然を
- 1. つなごう みんなの力で まちづくりの手を
- 1. きずこう 個性ゆたかな あすの金沢を

創立六十周年を迎えて



金沢市小坂公民館館長 谷村 昭雄

当公民館は昭和二十七年（一九五二年）四月、小坂小学校の一室を事務所として創設されました。その後、先人各位の並々ならぬご尽力と金沢市及び地域の皆さまのご理解、ご協力のお陰で、昭和四十九（一九七四年）十月、現在の鉄筋コンクリートの独立建物小坂社会文化センターが完成し、小坂児童館、老人憩いの家を併設して今日の六十年を迎えました。

この間就任された館長は、初代故坂井善雄氏、二代目故二木由郎氏、三代目故吉田孝二氏、四代目坂本作二氏、五代目辻久雄氏、六代目石見義之氏へと引き継がれました。そして各館長は、それぞれの時代に遭遇した数々の諸難題を、円滑に解決処理され、今日の発展に導いてくださいました。創立六十周年を迎えるに際し、関係各位のご尽力とご苦勞に、心から感謝と敬意を表します。

私は平成十四（二〇〇二年）四月、創立五十周年記念事業を見事成し遂げご退任された石見義之氏の後任館長として、地域からの推挙を受け就任いたしました。以来今日までの間、微力ではございますが、先代館長の業績を守り続け、金沢市をはじめ地域の皆さまの温かいご指導ご支援をいただき、今日に及んでおりますことに心からの感謝とお礼を申し上げます。

当地域は、かつての「れんこんのまち小坂」から、蓮根の田んぼがほとんどなくなり宅地化され、人口二一、五三七人・四、六七五世帯・二十町会（二〇一一年十月現在）の大住宅地に変貌しました。そして小坂小学校を取り巻き三中学校、二高校、一短大、一大学・大学院を有するすばらしい学園地域となりました。加えて、金沢外環状道路山側幹線が完成し、地域内の交通渋滞が解消されるなどきわめて快適な地域となり、今後の発展が一層期待されています。

一方、平成二十三（二〇一一年）三月に発生した東日本大震災は、原発事故を併発し戦後最大の国難となり、全国各地における防災体制の在り方の見直し、充実への取り組み強化が教訓となりました。当公民館においても、小坂校下自主防災会と緊密に連携して、当地域の防災体制の充実・強化に向けて更なる取り組みが必要であります。

また、六十年ぶりに改正された教育基本法に基づく社会教育法の改正は、これからの公民館のあり方について新たな課題が提起されており、課題解決に向けた的確な対応が求められています。更には、三十数年前に建設された当小坂社会文化センター建物の老朽化が進み、修理、改善対策が急務となっております。これらの難題解決に当たっては、金沢市及び地域各種団体のご理解、ご協力をお願いし、各町会派遣の公民館委員の総力を結集して、積極果敢に取り組まなければなりません。

このような状況を踏まえ、当公民館は次代に向かって、その第一歩を踏み出します。

皆さまの変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

祝辞



金沢市長 山野之義

小坂公民館が創立六十周年を迎えられ記念誌を発刊されますことを心からお祝い申し上げます。

創立以来、小坂公民館が住民ニーズに即した学習講座を開設し、地域各種団体との連携を推進するなど、地域の生涯学習とコミュニティの拠点として大きな役割を果たしてきたことに対し深く敬意を表する次第でございます。

社会学には「ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)」という言葉があり、これは、地域住民の信頼関係や結びつきが蓄積された社会は教育面や健康面で良い影響があり、それが社会全体の発展につながる、ということを意味しています。

わたくしは地区公民館こそ、このソーシャル・キャピタルを形成する「核」であり、各地域コミュニティを生涯学習を通じた「ネットワーク(絆)」によって一つにする、その拠点であると確信しています。

小坂公民館には「いいね金沢 蓮のふる里 小坂まち」「人と人、心と心をつなぐ 金沢市小坂公民館」のチャッチフレーズがあると聞いています。

愛する金沢、清らかさの象徴である蓮のふる里小坂にあって、城北地区公民館連絡協議会の一員である小坂公民館は生涯学習を契機に、人と人、心と心をつなぎ「蓮の根のように太い地域力」を育ててまいりました。

そこには現在の谷村館長、歴代の館長をはじめとする多くの方々のご尽力やご努力があったことと思います。

今後とも、小坂公民館が人と人、心と心をつなぐ小坂地区の拠点として、また各地区公民館を「太いネットワーク(絆)」で結ぶ、その筆頭として活躍されることをご期待申し上げます。

むすびに、小坂地区のますますのご発展を祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。

祝辞



金沢市教育委員会
教育長 浅香久美子

小坂公民館が創立六十周年を迎えられ、ここに記念誌を発刊されますことを心からお祝いを申し上げます。

六十年の長きにわたり小坂公民館は生涯学習とコミュニティの拠点として、地域や学校と連携しながら小坂地区の魅力を共有・再発見する様々な事業を展開されてきました。

小坂公民館のホームページには、小坂校下子どもを育てる地域プランづくり実行委員会の皆様が作成された「小坂散策MAP」が掲載されており、また「わき水のある公園」や「珍しい蓮の花が見られる寺院」、「芭蕉の句碑が建立された神社」など、地域には様々な自然や歴史が残されていることをわたくしたちに教えてくれます。

本市教育委員会では「絆」の考え方を基軸に、将来にわたって金沢に対し愛着と誇りを持ち、世界的視野に立った人材の育成につながる教育の充実を目指しています。そのためには地域、学校、行政等が学校教育、生涯学習の両面で連携協力していくことが不可欠です。

小坂公民館におかれましては「生涯学習の拠点」として、また地域の豊富な学習資源を活かした「地域に愛着と誇りをもてる人材を育成する拠点」として、今後ともご活躍くださるよう願っております。

これからの社会は、人が人を思いやり助け合う心のつながりが一層大切になってきます。小坂公民館が地域の皆様方の心をつなぐよりどころとして益々発展されますことを期待申し上げますとともに、今日まで公民館活動にご尽力くださいました歴代の館長、役員の方々をはじめ、地域の皆様に心より感謝を申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝辞



小坂校下町会連合会会長

駒崎 稔

小坂公民館が創立六十周年を迎えられたことを記念して、記念誌を発刊されますことに心からお祝い申し上げます。

小坂公民館は、社会教育・生涯学習の場として、また、小坂校下の社会活動の拠点として大切な役割を果し、地域社会の発展に大きく寄与されています。

これまで、公民館の運営にご尽力いただきました歴代の館長をはじめ役員の方々に敬意を表し、感謝を申し上げます。

また、町会連合会ならびに各種団体の活動につきましてもご協力をいただいていますことにお礼を申し上げます。

町会連合会は、地域住民が心豊かに安全で安心して暮らせるまち、また、住民は絆を大切にして自分の住む地域に誇りをもてるまちづくりに努めているところです。

しかし、近年、住民の連帯意識の低下が社会問題になっています。

「人は人の役にたつて人となる」と言う教えがあります。これから、公民館の学びの場をおして、人と人のつながり、絆を大事にする心と社会奉仕の精神を涵養されると共に「金沢市民グッドマナー」の意識高揚および実践により、地域力が確に強くなることを期待しています。

最後になりましたが、小坂公民館のますますの発展と役員各位のご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

祝辞



石川県議会議員

中村 勲

小坂公民館六十周年記念にあたり、心からお祝い申し上げます。

谷村館長さん始め六十一年の永きに渡り、歴代館長さん並びに各公民館役員の皆様、それをお支え頂いた駒崎町連会長さん始め、各町会長さんそして各種団体長、地域の皆様には公民館活動を通じて、地域の交流センターとしての中心的役割を果たされてまいりました。

私も五十年余りに渡り、子供会活動をスタートにして青年団活動等々、町会活動を通じて校下の活動に、参加させて頂きました。

特に子供会活動は育成委員、育成委員長、市子連相談役、そして、まいどさん会と活動させて頂いております。特に子ども会活動は国の将来を担う子ども達を、社会や地域がどう責任と関わりを持つ事への重要性を問われるものだけに、むずかしさがありました。いつも育成委員さん始め、地域の皆様のご理解とご協力、そして何よりも子ども達を信じてついて来てくれたからこそ、活動が継続出来たと思っております。

昨年三月十一日の東日本大震災は、改めて人と人との繋がりの大切さや、「自助、共助、公助」の精神の中、極限の状況の中で秩序を保ち、助け合う人々、これらに世界が日本の底力を感じ、被害は甚大だが必ず復興を果たすと確信を持って期待しているのも、正に永きに渡って地域活動を通して育ったボランティア精神が大きく生かされているものでありましょう。

震災後の日本は新しい物の見方、考え方が生まれたと聞いています。今後、益々地域の皆様のご理解とご協力で公民館活動の更なるご発展と地域での複合的役割が果たせるセンターとしての位置付けが更に強くなります事を心からご期待申し上げます、お祝いと致します。

祝辞



石川県議会議員

米澤賢司

このたび、小坂公民館がめでたく創立六十周年を迎えられ、その記念事業の一環として記念誌を発刊されましたことを心よりお慶び申し上げます。貴公民館は、戦後の荒廃混乱した社会情勢の中にあつて、「郷土の人達が楽しみたい時に楽しみ、学びたい時に自由に学べる施設」として、昭和二十七年にその礎を築かれて以来、地域に密着したきめ細やかな活動によって地域の社会の教育の拠点として重要な役割を果たしてまいりました。

この六十年の間、社会経済情勢は様々に変わりましたが、歴代役員の皆様方が、それぞれの時代に対応した課題に取り組み、工夫をこらした事業を実施されるなど、地域コミュニティを運営する底力として、誠に大きな存在でありました。

さて、近年、私達の生活は、かつて経験したことのない少子・高齢化の到来や高度情報社会の進展等によつて、大きく変容しようとしております。先人から受け継いだ生活様式は変化し、地域の連帯感も希薄になる中で、人々は新しいライフスタイルを求めて模索しているように見えます。

このような状況の中、教育行政の基本方針の一つである「生涯学習の振興」について、「人々が生涯にわたり、いつでも自由に学ぶことができる体制の整備と魅力的な活力ある地域づくりの推進」を重点施策の目標に掲げ、「心の教育の充実」を学校・家庭・社会が相携えて推進しようと呼びかけているのも貴公民館に寄せる期待の現れでありましょう。

さらに魅力的で活力のある地域づくりに向けて、ご一緒に進もうではありませんか。

終わりに、小坂公民館のこれまでのご尽力を讃え、次の七十・八十・九十・一〇〇周年のスタートに向けて、益々のご発展を遂げられますことを祈念いたします。お祝いの言葉といたします。

祝辞



金沢市議会議員

田中 仁

小坂公民館が創立六十周年を迎えられ、この度、記念誌を発刊されましたことを心からお慶び申し上げます。

小坂地区に公民館が発足されました年は、サンフランシスコ平和条約が発効し、晴れて日本が独立国家となった記念すべき年であります。また、その年の金沢は、四月に第一回の加賀百万石まつりが開催される一方、七月には大水害に見舞われ、金腐川の御所橋をはじめ、鈴見橋、小橋、中ノ橋、若松橋、大桑橋、窪大橋が流失するなど甚大な被害を受け、まさに記憶に残る年であったと言えます。

昭和二十八年八月に七六二世帯三、八五一人であったと金沢市の資料に記された小坂校下の人口は、昨年十月では四、六七五世帯一、五三七人となり、先人の地域への愛着心と弛まぬ努力の積み重ねで、城北地区の要の地域として着実に発展を遂げてきており、あらためてこの地に住む幸せに感謝いたしております。

公民館は、少子・高齢社会を迎えている中で、地域の生涯学習の場として極めて大切な役割を担っており、公民館活動をさらに活発にしていくなめには、これまで以上に一人ひとりが、出来ることから活動に参加することが求められています。

金沢市が生涯学習で掲げるテーマの「いつでも、どこでも、だれでも」を実践することで、小坂公民館が校下の生涯学習の拠点としてさらに充実し、活力のある住みよい地域として発展されますことを、皆様とともに願う次第です。

結びに、これまで公民館活動を支えてこられました役職員をはじめとする関係各位に深甚の敬意を表しますとともに、小坂公民館の今後ますますのご発展をご祈念申し上げます。

小坂校下町会位置図



小坂公民館 創立60周年記念式典・祝賀会（新年互礼会）

平成24年1月8日（日） ホテル日航金沢



山野市長講話



谷村公民館長式辞



館長からの功労者表彰（駒崎運営審議委員長）



浅香金沢市教育長祝辞



来賓祝辞（小・中校長先生）



来賓祝辞（県議・市議）



祝賀会開始あいさつ



“コールこさか”のお祝いコーラス



なごやかな懇談1



聞き入る出席者



なごやかな懇談3



なごやかな懇談2



会場玄関前の看板



万歳三唱

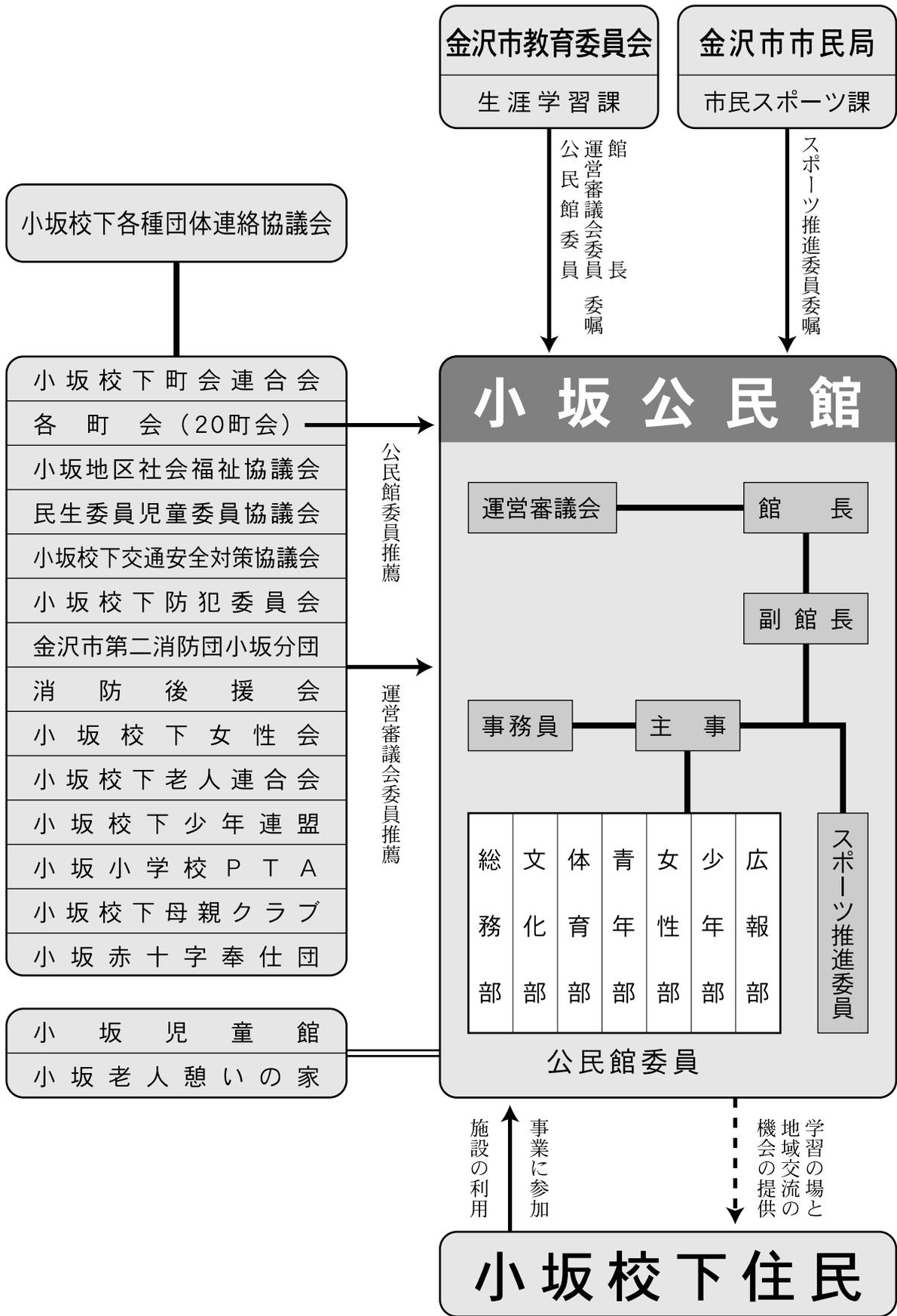


受付の役員



当日の配付プログラム

小坂公民館 運営組織図



平成23年度 年間行事



三世代交流事業 八塚山散策



三世代交流事業 八塚山散策



グラウンドゴルフ大会



蓮の実バス研修 三国湊



蓮の実バス研修 北前船



公民館で少連合宿



ソフトバレーボール大会



上高地散策 梓川のほとり



小坂っ子夏まつり もちつき



小坂っ子夏まつり



撮影会 醒ヶ井宿梅花藻



文化祭 スタンプラリー



文化祭 功労者表彰



文化祭 作品展示



文化祭 野菜の販売



大野こまちなみ散策



社会体育大会



社会体育大会



社会体育大会



社会体育大会



社会体育大会



社会体育大会



成人式



金沢市スポーツ総合優勝

各種教室で楽しく学んでいます。



読書会



俳句教室



筆ペン教室



西大正琴教室



太極拳教室



囲碁愛好会



コールこさか



絵手紙教室“夢うさぎ”



押し花教室“こさか”



3B体操教室



パソコン教室



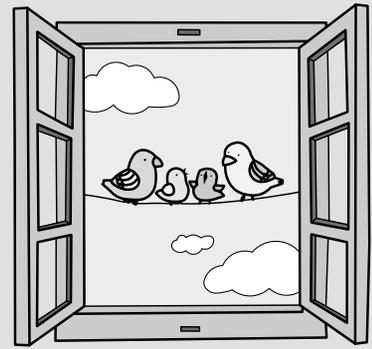
ホームページクラブ



お煎茶を楽しむ会



フラワーアレンジメント“ソニア”



子供作法教室



習字教室



珠算教室



しろはすフォークダンス友の会



小坂バドミントンクラブ



小坂ソフトバレーボールクラブ



小坂バウンドテニスクラブ



フレッシュテニス“こさっかーず”



小坂イーグルス



小坂ミニバスケットボールクラブ



北鳴ジュニアバレーボールクラブ



小坂ジュニアバレーボールクラブ

小坂校下町会連合会

小坂校下の町会数と町会世帯数

	町会数	町会世帯数		町会数	町会世帯数
平成14年度	17	2,579	平成19年度	18	2,915
平成15年度	18	2,796	平成20年度	18	2,899
平成16年度	18	2,867	平成21年度	18	2,916
平成17年度	18	2,896	平成22年度	18	2,939
平成18年度	18	2,913	平成23年度	20	3,104

備考 平成15年度に「ゆいの里町会」が、平成23年度に「ガーデンシティ東金沢町会並びにアテリア鳴和町会」が正式加入

小坂校下町会連合会役員

	会 長	副 会 長		監 事		会 計
平成14年度	駒崎 稔	村松松雄	清谷暁外	山田初雄	神谷怡博	北本節子
平成15年度	〃	〃	松本 明	野川勝紀	富 利男	〃
平成16年度	〃	〃	〃	〃	村上清造	〃
平成17年度	〃	〃	〃	〃	〃	〃
平成18年度	〃	〃	〃	村上清造	柳瀬邦夫	〃
平成19年度	〃	〃	村上清造	柳瀬邦夫	林 劭	〃
平成20年度	〃	〃	〃	〃	〃	〃
平成21年度	〃	村上清造	柳瀬邦夫	林 劭	吉本輝夫	〃
平成22年度	〃	〃	〃	沢本昭弘	宮川健一	千田志津子
平成23年度	〃	〃	〃	〃	〃	〃

このたび、金沢市小坂公民館創立六十周年記念にあたり、創立五十周年記念の平成十三年度後十年間の、町会連合会の歩みを概略紹介します。町会は、地域社会を代表する住民組織であります。各町会は住民の親睦と相互扶助により「明るく安全で安心して暮らす住みよいまちづくり」を目指して、町会長はじめ役員と会員（住民）が協力して、住民自治に努めている。

小坂小学校区的全町会により町会連合会を組織して、教育、福祉、防災、環境など多岐にわたり校下の諸団体と連携および支援をして、役割分担で活力のある地域づくりを推進しています。また、町会（市民）と行政の双方をつなぐパイプ役となり、地域社会の発展に寄与するさまざまな活動をしているところです。

小坂地区社会福祉協議会

社会福祉事業は生活保護、老人福祉（老人憩いの家の管理運営、地域サロンの開設、一人暮らしへの配食サービス、敬老会の開催等）、児童福祉（児童館、放課後児童クラブの運営や世代交流事業等）、身体・知的障害者の自立支援、日常生活の自立支援の活動があり、児童（児童福祉法の児童は満十八歳未満を指す）のみの件について、当地区では二名の主任児童委員が任命されている。さらに今一つ、共同募金も地元の上の事業を推進するために還元される大切な運営資金であることを申

小坂地区社会福祉協議会が昭和二十六（一九五二）年に発足して六十周年、奇しくも当公民館と同じ年月を歩んだことになりました。民生委員・児童委員制度は、大正中頃に、前身の済生顧問制度が出来、九十有余年の歴史を刻んでいる。社会福祉協議会即ち民生委員・児童委員（二十一名）との概念が強いようだが、近年の少子高齢化、核家族化が顕著になり、障害を持った人達や一人暮らしの高齢者の増加で民生委員・児童委員だけでは対応が難しく、地域全体での見守り活動が必要ではと、各種団体で構成する社会福祉協議会が出来、更に情況の把握とよりきめ細やかな活動の為に、まちぐるみ福祉活動推進員（三十三名）を平成十一（一九九九）年から委嘱している。



し添え、いくらかでも社会福祉協議会についてご理解いただき、地域の皆様のご協力をお願い致します。

小坂地区民生委員児童委員協議会



民生委員には、地域の福祉の推進役を務めることに大きな期待がかけられています。昨今の高齢化、児童虐待、DV、孤独死、心身の障害、不安等、福祉問題は増えています。日頃より地域状況を把握して問題の早期発見に務め、相談・支援活動につなげていく事が求められています。特にこの十年をみれば、社会福祉法、介護保険法、障害者自立支援法等の改正や新たな制定、施行もあり、私達の活動内容は多様化し、困難な問題も増えています。それに供い、私達の活動のしにくさや負担感の増加により民生委員・児童委員候補者の確保が困難になってきていることも現実です。

小坂民児協状況

年	13*	14	15	16*	17	18	19*	20	21	22*	23
定員	21(2)			22(2)			23(2)			23(2)	
交代者数	5			6(1)			6(1)			6	
社協会長	神保外己雄			東 武美			松本 明				
民児協会長				東 武美						高野善一	

*は改選年、()内は主任児童委員

小坂地区状況

年	項目	世帯数	人数	65才以上	75才以上
平成13年4月		4,007	10,292 (男5,022 女5,270)	1,630 (15.8%)	728 (7.1%)
平成23年4月		4,562	11,234 (男5,494 女5,740)	2,271 (20.2%)	1,033 (9.2%)
差引増		555	942 (男 472 女 470)	641	305

優良活動団体として厚生労働大臣表彰を受けたことは、喜びとその後活動の励みとなりました。今後ますますの活動強化を求められていますが、地域の皆様のご支援ご協力を得て住み良い地域づくりに向けて努力してまいりますので宜しくお願い申し上げます。

金沢市立小坂児童館



六十周年おめでとうございます
児童館は、児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、または情操を豊かにする目的で設置されていて、〇歳から十八歳未満が自由に利用できる施設である。金沢市に三十一館があり、小坂児童館は昭和五十年四月一日に開館となり、今年で三十六年目を迎えた。
平成二十一年四月一日から金沢市の指定管理団体となり、金沢市立小坂児童館振興協力が管理・運営を行っている。

50周年以降の事業について 金沢市子育て夢ステーション事業を実施

親子ふれあい相談事業	かんがるー教室の実施 (年間30回、2歳児の親子教室)
未就園児親子フリー来館	午前中、児童館の空いたスペースを未就園児親子の情報交換や遊びの場として提供する
子育て何でも相談	子育てに関する相談の受け付け実施
子育て総合情報提供	子育て家庭へ情報の提供

異年齢児交流事業、世代間交流事業、地域交流事業、子どもボランティアグループ育成支援事業を実施している。



小坂交通安全対策協議会

小坂交通安全対策協議会

昭和四十六年九月設立以来、校下の交通事故防止運動と交通安全思想の普及と高揚を図り、交通事故のない明るく住みよい町づくりの推進に努めています。

平成八年九月二十二日に秋の交通安全市民大会でその功績を認められ金沢市長より感謝状が授与されました。



役員交代

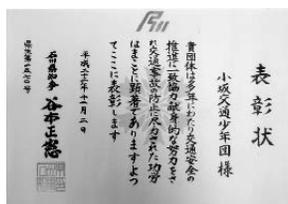
山内 喜代志
平成五年四月一日〜
平成十四年三月三十一日
延村 茂 憲
平成十五年四月一日〜現在

小坂交通少年団

子ども同士が交通事故のない地域を目指し、交通安全教室、カーブミラーの清掃や交差点内の除草活動などを行っています。

石川県知事表彰

石川県交通安全功労団体
平成二十二年十一月二日



金沢東交通安全協会小坂支部

平成二十三年の小坂地区敬老会の席上で高齢者の事故防止に役立てようと、夜光反射材を敬老会該当者など一、一五〇名に配布し、石川県警察本部が進める新アンダー五〇作戦（死亡事故五〇名以下にする）にも寄与しています。



全日本交通協会会長表彰

交通安全優良団体
平成十四年一月十八日

小坂校下防犯委員会

当委員会は昭和三十（一九五五）年に結成され、今日に至るまで、校下全体の安全と防犯のための活動を継続しています。

【二十年の動き】

平成十四（二〇〇二）年四月、それまで委員長を七年間を勤めた飛鳥井久雄から中村恵次郎に交替。その六年後の平成二十（二〇〇八）年四月、野崎義則に交替。現在は各町会から選ばれた委員と理事・相談役・監事の総勢四十名で構成され活動しております。

また、当委員会は小坂地区青少年健全育成推進協議会の構成員であり、委員の一部は小坂地区地域子ども指導員をも兼ねております。

平成十六（二〇〇四）年度より校下の公園等に防犯立て看板を設置しはじて、現在は校下の小中学校を含む十二ヶ所に設置し、点検、改修しております。



平成十九（二〇〇七）年より青色回転灯装備車を導入し、順次台数を増やして現在は四台を登録。校下の夜間パトロールや金沢東防犯協会年末年始特別警戒出発式等に出動しております。



主な活動は、交通推進隊の協力で各委員が交代で行っている校下の夜間防犯パトロールです。夏の児童・生徒への挨拶・声かけ運動、東防犯協会の事業への出動など、このような見える活動を通じて地域全体の防犯意識を高揚させ、犯罪を防止するとともに地域とのつながりをさらに深めて安心して住める小坂の町づくりに貢献したいと思っております。

今後とも当委員会の活動にご理解と地域の皆様のご協力をお願い致します。



金沢市第二消防団小坂分団

日頃から分団活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。また、この度の小坂公民館創立六十年、誠におめでとうございます。何事も歴史を重ねるといことは大変なこと、私達小坂分団の歴史も様々な出来事や団員の入れ替わりを繰り返しながら、同時に、良いも悪いもひたひたつくるめて過去の歴史を背負いながら活動していると言ってもいいでしょう。

現在、定員三十名のところ大学生を含め実員三十名を維持し、加えてカナダ人の特別分団員を交えて、十代から六十代まで三世代が和気藹々、防災・消火活動、訓練や各種行事に積極的に活動しています。特に金沢の伝統文化「加賀鳶はしご登り」の継承は全国的にも稀な、金沢の消防団に任された大きな役割であり、団員の誇りとするところです。その演技者十名を擁する私達小坂分団は金沢一と言つていいでしょう。



ですが今は違います。「まず家庭を大切に、仕事に打ち込み、然る後分団活動に精を出す」このことが肝要と思います。そして最近団員の中で共通認識となってきたのは、「消防団活動をしていけば地域活動をやっているという自己満足に陥ることなく、地域の他の役も積極的に引き受け参加すること」そのことにより分団が地域から認められ、かつ、より強い協力関係が築かれることを確信するからです。

小坂分団後援会

3・11東日本大震災による大津波、多くの方々がお亡くなりなられました。そうした中で自らの身を犠牲に非難誘導に取り組み、尊い人命を救うために命を絶たれた消防士、団員各位に対し敬意と感謝の念でいっぱい、只々ご冥福をお祈りいたします。

さて伝統ある金沢市第二消防団小坂分団、郷土愛に燃え、堅固な団結力のもとで義勇と奉仕を気風とした分団活動、加賀鳶梯子登りの保存育成に代々続くリーダーのもと、日夜をおかず自己研鑽に努め、地域において安全、安心の中核としての活躍に敬服いたします。

小坂分団後援会はこうした団員の活動を支援する目的で誕生。消防ポンプ車、同資器材の更新・建物の保守・団員の基礎知識の向上等々に、地域と分団の接点としての役割を担っています。

いろいろな後援会活動の中でも阪神淡路大震災を受けて昭和四十六年に建築した先の消防会館が耐震構造でないため、地域の皆様方へ語りご理解、ご支援並びに市当局の助成を得て会館の建設に向けて、平成十八年六月着工、同年十一月に竣工、新しい防災拠点が生れました。会館建設に伴う特記事

項として

一、山側環状線の開通に併せて小坂中交差点が整備され、出口口を新設道路側に設け、迅速化、緊急時に学校側走行の危険性の解消を図りました。

一、工事期間中の車庫及び資器材の代替場所を東洋警備保障(株)(小坂町北二一四)様の御好意で同社の一部を提供していただき、スムーズに活動移行が出来ました。

一、竣工記念に会館前花壇にこがね、かみやち、ひがしかなざわ各保育園園児、校下長老に高野槇の植樹をしていただきました。子供達が将来消防活動に携わることを願っています。

冒頭に記しましたが、それぞれが職業を持ち、一旦事あれば自身の身を顧みることなく強い意志で活動する団員各位に敬意を表するとともに地域の皆様にお力をお借りし、支援活動を展開していきます。



小坂校下女性会

災害時の互助システム構築

合言葉は「向こう三軒両隣」



食料や日用品の不足に備え、防災システムを構築する。校下婦人会、活動が活発な。女性会は、十日まで「新開」を企画し、地区に災害時の互助システムを構築する。城下地区の互助システムを構築する。城下地区の互助システムを構築する。城下地区の互助システムを構築する。

会費に補助金を活用し、活動が活発な。女性会は、十日まで「新開」を企画し、地区に災害時の互助システムを構築する。城下地区の互助システムを構築する。城下地区の互助システムを構築する。城下地区の互助システムを構築する。

校下女性会では、「私たちに出来る防災・減災」と題して現在活動しています。東日本大震災以後は災害に対する恐怖心がより深まり「備えあれば憂いなし」と毛糸のセーターで作る「非常用持出袋」の作成や防災布で作る「防災頭巾」作りを開催し会員同士の情報交換と共に災害に強い地域づくりに努めています。

平成十九年には金沢で初めて「城北ブロック災害互助システム」を構築、もしも城北ブロック内で災害が起きた時、各校下が連絡を取り合い女性ならではのきめ細かな救助・救援をしたいと視察・研修を重ねています。

防災公演会は毎年、各町内会でも開催し「向こう三軒両隣」仲良くすれば災害時の共助から減災に繋がる

事故を未然に防げたらいいねと地域サロンの参加者全員に「ガスコンロの火が袖口に燃え移らないように是非装着してほしい」とプレゼントしました。美味しい味噌汁も作り、身も心も温かく世代を超えた親睦も深めています。

また毎年、地元の野間神社で祈願した「交通安全マスコット」を小坂小学校入学式で新一年生に贈ります。

私たち女性会は一個一個心を込めて「事故の無いように元気で勉強してほしい」と願って、二十五年間作り続けています。「子供は地域の宝」見守って下さる地域住民の方々にも交通安全週間に交通安全少年団と共に配布しています。

とお願いしています。

女性防火クラブは春・秋・歳末と火災予防運動で広報活動を行います。最近「コンロの火が着衣に燃え移り高齢者の火災死亡事故が増加」と聞き、防災布のアームカバーを作り、この

小坂校下老人連合会・小坂老人クラブ

小坂公民館六〇周年を心よりお慶び申し上げます

一) 小坂老人クラブの結成は、昭和四十六年で、当時の小坂校下十三町会の有志二〇名前後の会員で結成されました。その後、老人クラブに對し助成金が出るようになり、毎月の活動状況を三ヶ月毎に活動内容を報告することになっておりましたが、現在は一年毎に変更になりましたので、その点少し事務的に助かりました。

二) 現在の活動状況

活動組織としては、会長、副会長、会計、監査役、常任理事、各町会代表の理事二〇名程度の構成であり、町会連合会とはまったくもって同じである。役員の方々には、それぞれ役割分担がある。積極的に活動を展開している。

恒例の行事として、総会から追悼法要、年二回(一泊二日)温泉研修旅行、この行事は会員が一番たのしみに行っている行事であり、温泉で食事を執りながら歌って踊って笑ってのひとときが嬉しくて会員になつていく方も多いと聞いております。

又、それとは別に運動の一環として月二回のグラウンドゴルフの練習を始めました。老人会の会員以外の方も大歓迎で見受けることもあります。ただし、年二回の大会だけは



会員だけで、日頃の練習の成果を試す日ですので、一生懸命に和気あいあいプレーをしています。会員には大切な運動の一つではないでしょうか。

年一回、市老連の主催で、金沢市全体での老人会の幹部として女性、男性共にリーダー研修会が開催され、当クラブから女性二名、男性二名が出席して、二日間の日程で勉強する会議です。

奉仕活動は、年二回の公民館周囲の除草作業は、日頃老人会の理事会で使用している関係上、当然であると割り切つて作業している。

今後の問題点

現在は、ほとんどの会員は七〇才代の方々が多く、なんとか六〇才代の会員を入会させたい色々良い方法を考えねばなりません。

最後に会員皆様方の健康をお祈りし、交通安全をよく守り、地域の友愛活動を更に発展させ、明るく楽しい老人活動を心掛けてゆく覚悟です。

小坂校下少年連盟



ここ十年の間に小坂少連では役員が大きく入れ替わり、行事内容も変わってきました。提灯行列などこれまで通りの行事も数多くありますが、夏の盆踊り大会は「小坂っ子夏祭り」となり、子供たち中心の行事になりました。また球技大会もソフトボール、ドッジボールから、少ない人数でも参加可能なグラウンドゴルフに変わりました。新しい行事はまず合宿です。合宿では活動を小学生から高校生までの縦割りのグループで行い、子ども達自身で食事のメニュー選びから食材の買い出し、調理にいたるまでグループで話し合い行っています。それからバーベキュー、レンコン掘り、町中散策というような行事も増や

てきました。これらの活動は小学生の子ども委員会を中心に、心に行い、これらをサポートする中高生、シニアのリーダー育成にも努力してきました。今では中学生リーダーが育ち、小坂少連のみならず市子連（金沢市子ども会連合会）でも活躍してもらっています。また、各行事では市子連に高校生リーダー派遣を依頼し、いろいろな年頃の子も達と一緒に、各行事の企画、運営を行い、子ども達の意見を取り入れた内容の行事を行えるように努めています。今後、地域の方や子ども達と一緒にがんばって、子ども達が自分で考え行動し、また他人のことも思いやることができる人になっていくように後押しする小坂少連でありたいと思っています。



小坂小学校PTA

小坂小PTAでは、児童の安全確保と健全育成はもちろんのこと『学校と家庭、地域の協働による健全育成』というテーマのもと、小坂小に集うみんなが様々な形で成長できるように、年間を通して各種行事や研修会などを行っています。

【主な年間活動】
 四月 PTA総会
 五月 廃品回収（年五回）
 六月 クラス行事、白はす学級（年四回）
 七月 サマースクール、給食試食会
 八月 夏休み郊外パトロール
 十月 バザー
 二月 スキー遠足

●近年の動向
 この十年間を振り返ると、社会情勢が目まぐるしく変化の中で、PTAを取り巻く環境も変化してきています。東金沢駅周辺における土地開発が進み児童数が増加していることをはじめ、通学路における不審者情報や、山側環状道路と東金沢駅前自転車レーンの



供用開始に伴う通学路状況の変化などがあります。これらの変化に対応するために『スクールサポート隊』のご協力ももちろんのこと、PTAとしても「子ども安全見守り隊」の発足や、「通学路の点検簿」の作成により横断歩道を整備するなど、より一層活動を充実させ児童の見守りを図ってきました。

●おわりに
 今後もPTA活動は小坂小が存在する限り継続されていくことに変わりはありませんが、それは学校と家庭だけでなく、当然ながら地域社会との連携が欠かせません。次の新たな十年を刻む上で、とりわけ地域社会の中心である公民館組織との連携は、重要な役割を果たし、共に歩んでいくといっても過言ではありません。

【平成二十三年度役員】
 会長 中西健一
 副会長 川向 聡、井村 透
 山崎文華、横浜 恵
 上西浩美、森田晃子
 書記 上原いづみ、中村真理子
 書記 山田佐知、河崎由紀子
 会計



小坂校下母親クラブ

○結成

昭和五十六（一九八一）年、親子クラブとして発足した。（初代会長 宮川国子）その後、母親クラブに改称する。

○母親クラブとは

地域のお母さん、お父さんが集って、子ども達の健全育成を図ることを目的に活動しているボランティア組織で、児童館を活動拠点とし、地域児童のための児童館の活動を親の視点からサポートしている。

○母親クラブ五つの活動

・親子及び世代間の交流・文化活動
ハイキングやレクリエーション活動を実施し、子どもたち同士、親子おじいさんやおばあさんとの交流を深めている。

・児童養育に関する研修活動

各種講演会、研修会、座談会などへの参加や施設見学などを通して、会員相互の資質の向上をめざしている。

・児童の事故防止のための活動

遊び場や遊具の点検、交通安全指導など、事故や犯罪から子どもたちを未然に守る活動も行っている。

・児童館日曜等利用活動

日曜日、祝日に児童館を利用して、親子行事などを行っている。

・その他、児童福祉に寄与する活動

○主な年間行事
親子バスハイキング、七夕折り紙教室、小坂っ子夏まつり、社会体



育大会、児童館フェスティバル（市民芸術村）、文化祭（おもちゃ、駄菓子くじ引き）、大掃除、避難訓練、クリスマスの集い

○七夕折り紙教室

七夕の笹につける折り紙飾りの製作を児童館の職員の指導のもと行い、子どもたちとの交流を深めた他、七夕にちなんだ映画および今年度（平成二十三年）は東日本大震災という未曾有の大災害に見舞われたことを受け、地震を題材にした映画の上映も行った。

小坂校下赤十字奉仕団

一、すべての人びとのしあわせを願ひ、陰の力となって人びとに奉仕する。
一、常にくふうして人びとのために、よりよい奉仕ができるように努める。

一、身近な奉仕をひろげ、すべての人びとと手をつないで、世界の平和につくす。

活動を始める際に唱和する赤十字奉仕団の信条で、これらを自分達の心がまえとして「気づき、考え、実行すること」を目指している。

平成十三年（二〇〇一）の設立は、

金沢市で三〇番目の地域奉仕団で、先ず赤十字についての知識を持ち、奉仕団とはどういふ団体かを理解し、活動に協力して貰うことが地域への働きかけだった。

ボランティア団体は押し着せでなく、「この指とまれ」が理想なのだろうが、赤十字奉仕団は全国的にも施政側からの要請で創設された地域奉仕団が圧倒的に多いと見受けられる。

当団は各種団体長を委員（約三十五名）とし、町内会からの選任者を団員（約四十五名）として、ほぼ合計八〇名で男五十五名、女二十五名の構成だが、毎年三〇名程が新任に交替している。

新任団員の研修と心肺蘇生

法等の救急法は、毎年欠かせない必修の恒例行事としていて、特徴的な事業とは、小学校PTA保護者対象の水安全教室（児童の水の事故を防ぐ）は、プールに入つての実技演習は県内で珍しいとされ、献血運動は奉仕団独自で十回（十年）連続で行ったことが評価されている。

自分のできることで、随意に奉仕団活動に参加していただくようお願いしたい。



日中JRC交流会で炊き出しの支援 於：夕日寺健民自然園 2010/07/25

小坂第一町会

小坂公民館設立六十周年おめでとうございます。

小坂第一町会の紹介をさせて頂きまずと、東方面の八塚山の連なる山々を背景に南北に細長く、雪どけの春には、梅の花に始まり、桃、桜、もくれん、色取り々の春の景色が眼と心を楽しませてくれ、北国新聞のカメラマンが写真を撮りに来て新聞に載せてもらいます。又、新緑の時期になると、山々の木々が芽吹き新たに新鮮な気持ちになり、人々に元気なエネルギーを与えてくれ、寒さから解放され、行き交う人達の会話がはずんでいます。

年間を通してみれば、四月の野間神社の春祭り子供の太鼓行列、六月の市祭のちようちん行列、百万石行列の獅子舞の参加、八月の盆踊り、サマーフェスティバル、九月の野間神社の秋の子供太鼓行列と獅子舞の町内巡行、十月の町内運動会で、一連の屋外行事でそれぞれの行事ごとで多くの子供さんが楽しんで参加してくれるのが町会の自慢です。

十年を振り返ってみると、八塚山後方に山側環状道路が開通して木間から見える車の騒音で、山を歩いていても小鳥のさえずり、カラスの鳴き声が環境の変化により少し寂しくなったかな、裏山とともに育った私には大きな出来事です。この様な変化も時代かなと思っています。

もう一つは、小坂獅子舞保存会の



充実した歩みです。毎年の如く金沢市より百万石行列の参加の依頼と、ねんりんピック石川の参加です。金沢にも多くの獅子舞団体があるなかで参加要請があれば「即、出ます」の元気な返答ができる小坂獅子舞保存会です。獅子舞巡行の参加人員においても子供さんの参加も多くワイワイ、ガヤガヤと大人に交じって楽しく出陣の準備。この様なすがたが町内の親睦につながり総勢百人を超える巡行です。さらなる十年に向けて元気にいきます。

小坂中町会

小坂中町会の中央に、国道がある町である。この国道は、八号→一五九号→三五九号と時代が変るにつれ号数が進み、今は三五九号となっています。町会中央に陸橋があり、鳴和方面は無電柱化になってきれいななっています。一方、森本方面は従来のままで、バランスの悪い町会風景になっています。もう少し進んで浅の川病院まで無電柱化になれば、良い街並になったのと思います。

街並については、町会中央近辺にあった、ヤスイストア、中道ストア、大下駄屋等がなくなり、アパートや空地に変わり、以前の面影がなくなってしまう。一方では、示野歯科医院、談笑屋菓子店、中日新聞販売店の三店が新しく生まれ変わりました。また県道東金沢停車場線が平成二十年から自転車レーンが供用開始され、桜丘、星稜の二高校の通学路が整備されきれいになりました。両校共国道三五九号

を渡らなければならぬので、通学時間帯の混雑はさけられない状況です。国道が中央に走る小坂中町会ですが、車社会となった今日、商店は駐車場がなければ、商売になりません。買物は、大きな駐車場の大型スーパー



に客は流れる傾向です。山側環状線、インターチェンジ等の高次元化している神谷内地区に比べ、街並で大きく差が出来たように思われ、時の流れを感じざるを得ません。

小坂三ツ屋町会



◎町会の活性化

小坂三ツ屋町会では、一層の活性化を図るため、平成十七年度に役員組織や選出方法の見直しを行った。

町会の運営においては、年間行事等を策定するとともに、役員会を毎月開催して具体的な取組み方法を話し合い、実施している。班長会も年一回開催し、役員会との連携を図っている。また、幅広い世代から参加が得られるよう、老人会や女性会、子ども会とも協力しながら活動している。

平成二十一年度には、町会の防災計画を策定した。地理的特性や人口構成等を考慮しながら、予測される災害や危険区域を想定し、自主防災体制を作った。八月にはこの避難計画に基づく初の防災訓練を実施し、町会住民の防災意識を高める機会となった。

住民相互の親睦を図るため、毎年行っている行事にレクリエーションと新年会がある。今年度は長浜方面

へのバス旅行を行い、和気あいあいとした中で交流を深めることができた。

◎地域とのかかわり

当町会では、医療法人社団「福久会小坂事業所」との交流を行っている。五月の講演会や定例の推進会議には役員も出席し、八月には恒例の夏祭りにも参加している。夏祭りでは、毎年焼きそばやフランクフルトを調理提供したり、入所者の方々に浴衣の着付けをしたりするなど好評を得ている。

今後とも、町会における安全、安心を守り、親睦を深められるよう、役員一同が力を合わせ実践していく所存である。

※十年間の歴代町会長

- ・平成十四〜十七年度 野川勝紀
- ・平成十八、十九年度 坂野公樹
- ・平成二十、二十一年度 小坂秀樹
- ・平成二十二、二十三年度 米田 彰
- ※平成二十三年度役員構成

- | | |
|------|--------------------------|
| 町会長 | 米田 彰 |
| 副町会長 | 島田 哲、扇子 浩 |
| 理事 | 中川義広、駒崎 稔、平野文雄、村上 清、野川勝紀 |
| 監事 | 坂野公樹、小坂秀樹、中川敏明、幸村秀徳 |
| 総務部長 | 井野善議 |
| 会計部長 | 伊藤礼子 |
| 厚生部長 | 中村徹也 |
| 女性部長 | 中村春美 |

小坂親和町会

当町会是小さい町会です。

なにしろ数年前にヤクルトのサービセンターができて、そこに自動販売機が設置されるまで、自動販売機というものはありませんでした。それから十年前にテントを購入するまでは、社会体育大会では他の町会さんのテントに居候させてもらって参加していました。

また当町会で行ってきた行事は、夏のバーベキュー大会と秋の日帰りバスツアーです。

バーベキュー大会は、小坂公民館の玄関前をお借りして、焼き肉、焼きそば、かき氷をいただき、ビンゴゲームなどをして親睦をはかっています。

ここ数年のバス旅行では、平成十八年には山中方面（鶴仙峡、こおろぎ橋）、十九年には橋立方面（北前船の里資料館、石川県立航空プラザ）、二十年には志賀方面（花のミュージアムフロア、アリス館志賀）、二十一年には白山麓方面（ふれあい昆虫館）、二十二年には辰口方面（石川動物園）、昨年湯涌方面（江戸村、夢二館）を観て回り各地の旅館等で食事会をして親睦を深めてきました。



バス旅行の食事会の様子

昨年十月二十七日に当町会在住の金沢美術工芸大学名誉教授 中町進さんの御息の金沢学院美術文化学部教授の日本画家 中町力さんが第四十三回日展の会員賞を受賞されました。今後のさらなる活躍をお祈りします。

今まで当町会も平穩に過ごして来る事ができました。今後この平穩が続くように願っています。

東 金 沢 町 会

平成十四年移転以前のJR東金沢駅から、国道への道路を含む東南側に位置し、県立武道館や金沢市立城北児童会館がある町会です。

町会行事は、毎年春と秋のグラウンドゴルフ大会と日帰りバス旅行を開催しています。平成十九年には大阪ユニバーサルスタジオジャパンまで足を伸ばし、近年は満員御礼状態が続いています。

悠友会、主婦の会、青壮年部、子供会、ホームページ委員会があり、各会毎に様々な行事を行っています。陶芸教室で抹茶茶碗や菓子器を作り、それを持ち寄りお茶会を行ったり、夏休みには子供の健全育成を目的に、宿泊交流やバーベキューを開催しています。

ラジオ体操は、七月二十一日から八月三十一日の夏休み期間中、土・日・お盆・雨の日もかかさず続いています。小学生だけでなく、未就学児童からお年寄りまでの三世代が多



数参加し、この長年の取組が平成二十一年に全国表彰されました。町会の行事案内・活動報告・写真掲示を目的に、平成十七年ホームページ委員会を設立し、同年、町会ホームページを開設しました。パソコン教室を開きIT化も勧めています。詳しくはホームページをご覧ください。
★ ★ <http://hkzmydns.jp> ★ ★

御 所 町 会

御所町は、建武二年（西暦一三三五年）加賀の国司として二条大納言師基が任じられ当地に赴任し、館を築き、政務を取ったことから「御所」と呼ぶようになりました。

◆十年間の主要な出来事
一、金沢外環状道路（通称 山側環状）の全線開通（二〇〇六年四月十五日）

本道路の開通により、車での利便性が高くなった（高速道路、海浜道路まで約五分）。御所新橋が新設されたことに伴い、バス運行も従来のJRのほか北鉄バスも走ることとなり、金沢中心部へいくのにも便利になりました。

二、氏神様の加茂神社を新しく建立（二〇〇九年十月）
前社は、百数十年経過しており、

社務所が傾いたこと等から同じ場所に建立をしたものです。建設の期間中氏神様は、小坂の野間神社に預けることとし、夜暗くなつた八時ごろから作業（遷座）を開始し白い布で隠し、松明を焚きながら運ぶ等壮厳なたたずまいで行いました。一生に一度あるかないかのイベントでした。

三、民家近くで熊を捕獲（二〇一〇年八月）
三年前から熊の目撃が再三あり、ついに民家に出現し捕獲されたものです。NHKの全国放送となりました。

四、八ツ塚山古墳を覆っていた竹林及び木を伐採（二〇一〇年十月）
小坂の方と共同で古墳の環境整備を行いました。



大樋南親町会

◇町会のこの頃

昭和三十年四月町会設立、平成十七年に設立五十周年を迎え同年一月、記念祝賀会を盛大に開催して六年を経過した。五十六年前の町会創立時にご活躍された多くの方々が無事なまま、その時の様子語り聞かせる人が少なくなつて、なんともさびしい限りである。

今日の課題とされる少子高齢化の波は当町会にも及び、小学校へ入学する学童は年々減る一方、近年は一〜二名、皆無となる年も予想される。

かつては町会対抗の社会体育大会やソフトボールなどで、いつも上位入賞を競っていたわが町会も、今ではどの大会でも参加に意義ある事態と化している。町並みのあちこちに空き家が目立ち、この先の町会存続が危ぶまれるほどの心配である。

とは言え、町内におけるお互いの融和近所隣りの仲の良さ、助け合いの細やかさにかけては抜群で、どこにも負けないものがある。その自慢のひとつが町会設立以来、毎年続けている新年会とビアガーデンの納涼まつりへ参加する人の多さであり、そして中身の良さである。新年会では、市内の一流会場を選び、舞台上で数多くの芸能が披露される光景は見事である。各家庭から子ども連れで参加できるので、会場の雰囲気はなごやかで大にぎわい、そしてここで堂々と発表される濱野君子さん、渋谷多鶴子さんの舞踊や高山忠雄・敏子夫妻の隠し芸は年を追ってすばらしさを増し、いつも会場をわかしている。この楽しい雰囲気は、いつまでも残し続け、町会の融和と助け合い、支え合いに役立て、発展の一助となつてほしいと願っている。一方、昨今の大地震等の発生を教訓に、当町会では小坂校下自主防災会と連携して町会長をトップとする自主防災組織を編成し、

防災図上訓練や避難誘導訓練、防災用具の整備等を毎年行い、平成十八年度から県道沿い小公園脇に、県央土木総合事務所との承認を得て防災用具保管庫を設置、それまで民家に預けていたテント等の防災用具を移転するなど体制の整備強化に鋭意努めている。

◇元気でがんばる町会の人びと
平成十四年度からの十年間に、町会長五人、副町会長三人、会計二人(別紙参照)の方が主役となつて活躍され今日に至っている。そのほか、谷村昭雄氏には平成十四年から現在も継続して小坂公民館館長を、東武美氏には平成十五年から八年間、小坂地区の民生委員児童委員協議会会長・社会福祉協議会会長の要職をお願いし、各氏はそれぞれ職責を全うされ、当地域の発展に多大な貢献を果たしている。また、尾畑克幸氏は平成十四年から八年間にわたり町会派遣の公民館委員(体育部副部長)、鳥山佳永氏は平成十四年から九年間を超え現在も公民館委員を受け持ち、活躍されている。そのほか石田明子さんは校下少連育成副委員長、棒田健治氏は老人クラブ理事、西川義博氏は民生委員児童委員に就任し、元気でがんばる大樋南親町会の名を地域にとどろかせている。



町会役員 (平成14年度～平成23年度)

年度	町会長	副会長	会計	備考
14	高山忠雄	西川義博 石下外茂子	堀 功	8班 68世帯
15	"	" 宮上悦子	"	8班 67世帯
16	渡辺信行	" 石下外茂子	"	8班 66世帯
17	"	" 高山敏子	"	8班 66世帯
18	西川義博	高山忠雄 石田明子	"	8班 66世帯
19	"	"	"	8班 62世帯
20	東田 實	"	"	8班 62世帯
21	"	坂本征夫	"	8班 62世帯
22	堀 功	"	尾畑克幸	7班 56世帯
23	"	"	"	7班 56世帯

神宮寺2・3丁目町会

公民館設立六十周年にあたり、町会として心よりお祝い申し上げます。私たち神宮寺二・三丁目町会は、校下内での大きな町会の一つとして、これまで校下の発展と地域の親交を最も大切に取組んで参りました。

しかし五十周年から、この間私たち町会もいろいろ事情もあり町会長役員とも一年交代が続き、一時期校下各位にご迷惑、ご心配をおかけしたことを心よりお詫び申し上げます。これまで町会としても多くの継続した行事や取り組みを行なつて参りました。

青壮年会・婦人会を中心に町会行事として「バーベキュー大会」や「盆踊り」を継続してきたこと、「ラジオ体操」への親子参加など町会として市や公民館行事への積極的な参加で町民の地域参加意識の向上にも努めて参りました。

その功あり、今は校下・公民館行事への更なる協力体制と競技への熱意が増しており、参加者も増えてきたことは頼もしいことと思っております。

近年、地震等災害に対し町民全員に危機感を持つてもらい、対応できることを目的に毎年夏休み最後の日曜日に駅西消防署の協力を得、町会上げての「総合防災訓練」を継続実施することを決め、多くの参加で実施しております。

内容は災害での情報伝達、避難、



消火、AED操作をはじめ心肺蘇生、応急処置など多彩で参加者全員真剣に実習参加をしてきたことは、改めて今年の東日本大震災を感じて一層真剣に、また町民の絆を強めたものと思っております。

さらにコミュニケーション強化を図ることとして役員、班長会議の充実を図り、子供から高齢者が一緒に集まり楽しめる「グラウンドゴルフ大会」を年二回開催、また安心安全のための取り組みとして町会における相談窓口、交通安全の取組みなど、校下議員の皆さんとも相談の上、行政・警察などへの提言や指導も頂きながらより良い町会を目指したいと思っております。

神谷内本町会

平野部が山間地とつながる、その谷あいに位置するのが本町会で、世帯数は九十世帯です。

さて、本町会の歴史をひも解くと、町外れの丘陵地には、平成十二年に発掘を見た「神谷内古墳群」があり、かなり古くからこの地に人々が生活していた事が明らかになっています。また、地域の氏神「野蛟神社」も天

近年の大きな出来事としては、平成二十二年三月の「東部環状道路神谷内インター」開通があります。この事業は、広範囲の用地の提供、家屋の立ち退き等、多くの町会員に関連影響がありましたがいまは、城北地区における交通の利便性向上に大きく役立っています。

町会の今後を目を転じますと、高齢者のみの世帯の増加、更なる防災道路の整備を始めようとする防災対策、インター開通に伴う騒音、震



動問題等々があります。こうした問題の解決に向けては、まず、盆踊り、バーベキュー大会、獅子舞等諸行事を一層盛んにし、町会員の親睦融和をさらに高めていきます。さらには、青壮年層の町会運営、行事への一層の参加促進による町会の活性化により、歴史ある本町会の更なる発展を目指します。

神谷内中町会

公民館創立六〇周年おめでとうございます

神谷内中町会で平成十四年からの十年間で主要な出来事とは何だろうか！

一、水道本管が直結されたこと

水道の本管が町内で端末となっていました。入り口で工事等が始まると町内ほとんどが断水状態になるのです。それが本町の本管と直結されたので本心に安心しました。火災が無かったのが幸いです。

一、道路幅が広がったこと

町内入り口の道路の幅が広がったことです。地主さんの御好意で角も取れ、ブロック塀の高さも低くして頂き歩行者にも左右が見やすく、車は曲がりやすい道路になりました。一、公園ができたこと

神谷内はなみずき公園が出来たことが一番主要な事と思います。二〇〇九年十一月開園しました。公民館創立の頃そこは煉瓦工場でした。斜面なのは「登り窯」が有ったのです。その後ブロック工場、寮予定地、そして市の所有地となり公園になりました。安全で広くて子供達の格好の



遊び場です。町内は元より近隣の皆さまの憩いの場としても利用されております。バーベキュー大会等町会活動にも利用しています。来年度からはラジオ体操にも活用したいと思っています。

水道・道路・公園どれをとっても住民に必要な不可欠なことと思います。

これらのことで役所や地主さん、交渉等でご尽力くださった方々にお礼申し上げます。

神谷内西町会

平成十三年度以降十年間の変貌

一、青年層の活躍

私たち西町会ここ十年間変わった点は、若い人達が町会行事に積極的に参加してくれる事です。これまでは、意外と年配者ばかりでしたが、現在では若い人達が主体です。特に町会最大のイベント「夏のバーベキュー大会」において、企画、準備等、若い人達が積極的に働いてくれます。今年度は、青年部組織を立ち上げて、部長 山上 誠、副部長 石原篤史を中心にがんばっています。今後ますますの活躍を期待しています。

二、社会体育大会の飛躍

ここ十年間、十五年度第三位、二十年度準優勝と町会始まって以来の好成績を納めました。まさにみごとな出来事です。これもひとえに若い人達が積極的に参加してくれるおかげです。以前は、開会式の二十名以



上の参加もむずかしく、他の町会から借りて来た記憶があります。この様に我が西町会は、若い人達があらゆる面で力を付け

てきています。これからも青年部を中心に優勝目ざしてガンバッて欲しいものです。

三、山側環状神谷内インターの完成

念願の神谷内インターが平成二十二年三月二十七日に完成し、私たち西町会も大変便利になりました。特にもりの里方面へのアクセスが良くなり、時間が短縮されました。一方で交通量も増えて、危険な面もありま

すが、子供見守りボランティアの皆様のおかげで帰宅途上の子供達をサポートしていただいております。本当にありがとうございました。



四、おわりに

今後は役員、青年部、女性部一丸となって町会の発展に邁進していきたいと思えます。



神谷内葵町会

神谷内葵町会の近況について

神谷内葵町会は神谷内町山側に造成された団地で、昭和三十八年より入居が始まり現在に至っており、春はウグイスの囀りが聞こえ、夏はツバメが飛び交い、秋は山々の紅葉が美しく、冬は少し大変ですが、四季を折々に感じられる自然に囲まれた閑静な町会です。

当町会は地籍混乱地域だった為に、平成五年に地籍調査をおこない、日本最新の登記地図となり、地番が神谷内葵〇〇番地となりました。

昭和五十年代頃は児童数が二〇〇人を越え賑やかな町会でしたが、少子化の影響で児童数が激減し当時の児童達も成人し独立して町外への転出が多数となり、世帯数はさほど変わらないものの町民の構成が激変しています。

十年程前に旧電電公社グラウンド跡地に新しく団地が造成され、若い世帯

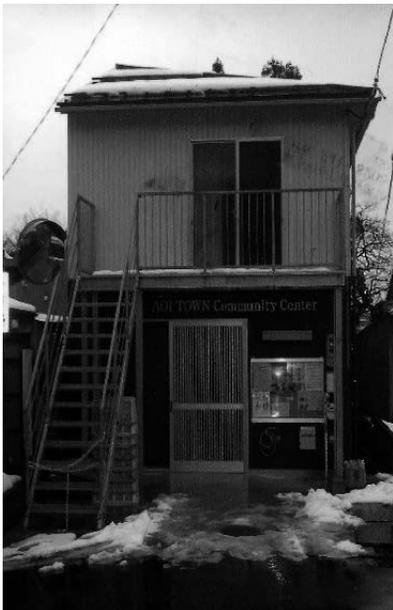
帯が二十数軒町会に加入し児童数も増えてきました。

ちょうどその頃に、先の記述の影響で解散状態だった、青壮年部・育成部を統合し葵青壮年育成会と称し活動を再開し、六十歳以上の町民で構成する葵ひまわり会を立ち上げ、町会役員構成の見直しなどを行ない、町会が徐々に活発な状態となり、夏には盛大に葵の夏祭りを開催し、独立した子供達も里帰りして大変賑やかな状態です。

町会活動が活発になるのに比例し町対抗行事でも毎年好成績をおさめています。

三年前に老朽化した集会所を全面改修し、新しくなった集会所では町民によるサークル活動も盛んに行なわれています。

神谷内インターの開通を期に町会出入り口付近の道路整備を陳情し、地元議員さんの力添えで不便な部分は、概ね解消しまし



たが、当町会の立地環境は決して良好とは言えず、この先災害に強いインフラ整備、非常時の取り組み等、町民が安心して暮らしていける町会を目指します。

新 葵 町 会

公民館創立六十周年おめでとうございませう。

当町会も昭和四十四年度に組織として発足し、その間歴代十九名の町会長の方々による町会運営の御努力を頂き、平成三十年には創立五十周年を迎えようとしています。

ここ十年間におきましては、平成十一年より、沿線住人の方々の移転・立ち退きの御協力を得て、北陸新幹線工事それに伴う生活道路の建設が始まりました。その後、町会内の皆様方の安心・安全を配慮し、町民関係機関とも検討を重ねてまいりました。ようやく、新幹線高架建設も終了、平成二十二年の生活道路の建設を最後に、全て完了する事ができ、あとは新幹線の開通を待つばかりとなりました。

その間、町会環境も大きく変わりました。町会創立以来、町会活動に御活躍頂いた方々の高齢化、新幹線建設に伴う移転・立ち退きによる空洞化等、数々ありますが、その一方、明るい話題もあり、新寿会・女性部が中心で行なわれる公



園・町会の美化運動。その活動に対して、平成十九年に金沢市、平成二十二年には石川県より表彰を頂きました。又、子供会においては、夏休みの交歓球技大会出場、近年行なわれるようになったグラウンドゴルフ大会に出場。少ない人数ですが、各大会に好成績を残す頑張りようです。青壮年部においては、町会の絆を保つ大事な組織となり、夏の盆踊り・冬の餅つき等、催事毎のお世話に大変感謝しています。

皆様方におかれましては、これからも公民館・地域活動に一層の御助力をお願いし、新葵町の紹介とさせていただきます。

三 池 町 会

三池町会には、金腐川の西側、東金沢駅の北側にある町会です。以前は北陸本線の西側一帯はレンコン田が多いのどかな所でしたが、区画整理事業による新しい街づくりや、都市計画道路足田上荒屋線の開通によって、新しく住まわれる方も増え、また商業施設や診療所なども建っています。

町内には子どもも多く、隣接する町会の子も含め、金腐川沿いの通学路をたくさん子どもたちが通学しており、町内のスクールサポート隊が子ども達を見守っており、グラウンドゴルフの指導やラジオ体操など、世代間でも積極的に交流しています。

街の形態は、北陸本線や現在建設中の北陸新幹線で分断されていますが、以前より、住民相互の親睦を図るため日吉神社を中心とした秋祭りや盆踊りなどの町会行事が盛んで、公民館の事業にも積極的に参加しています。区画整理事業の完了により、今後は町内に住まう方がさらに増加する事が予想されますが、これからも、新しく住まう方々の力を活力として、住民相互の融和を図り、元気で賑やかな町会でありつづけたいと思っています。



高柳町北親会

【概要】

昭和二十五年（一九五〇）に七十戸ばかりの市営団地として発足し六十一年を経た。一時世帯数は一〇〇を数えたが、世代交替等で空家や空地が目立ち、昨今は世帯数九〇、住民数約三〇〇で推移。

少子高齢化は否めず、七十五才以上が三十名、小学生が十八名となっていて、調整区域のため戸数増はあまり期待出来ないようである。

【環境の変化】

平成十三年（二〇〇一）から始まった三池高柳土地区画整理事業に伴って、疋田上荒屋線が七ツ屋跡線橋の完成で全通し、同じ頃に工場跡地に二〇〇戸を超える住宅団地（ゆいの里）が出来、スーパーマーケットの進出があり、開けた二画となった。かつて二万五千坪の工場敷地には、樹木が多く、海拔五・五mの当町では近年まれに一部の

の家屋で豪雨による高田川からの逆流で浸水はあったが、最近は大した雨でなくとも何回も苦情を聞くことがあり、排気ガスや離れた飲食店の匂いがただよって来たりする。便利な住環境の整いのをひたすら願っていたが、

それだけで良かったのかと思う。

【顕彰制度】

町創立五十周年記念時（平成十二年）に、故田形平八郎さんからの寄付金を基金として設けられ、町会運営のみならず、明るいまちづくりや融和に貢献した会員のねぎらいに贈ることとし、これまで三名が受賞している。

【町会の運営と活動】

次年度の役員を選出は、町内を五ブロックに分け、各ブロックから選出の五名で執行役員（町会長、副会長、総務、会計）の分担をとり決め、若い世代も加わり、順調に運営されている。

祭礼の子供みこしと獅子舞が年々賑やかに、女兒のなぎなたも披露されるようになり、育成委員や指導者とともに、これからの強い絆になってほしいと期待している。



神宮寺イトピア町会

（町会結成）

昭和五十一年十月、日本冶金工業の工場跡地に建設され十四階建、部屋数一一一の大型分譲マンションとしては金沢市内のマンションのパイオニアであり、屋上から遠く、日本海、医王山も見られ、当時の販売価格は大変なものでした。三年間は入居者はどこの町会にも属さず、いわば「町会の空白地点」だったが、昭和五十四年十月一日、マンション管理組合の発足と同時に町会を組織し、住民同志のつながりが全くなかったところによりやくコミュニケーションの場が生まれた。マンション内での町会設立は市内でも草分けの存在で五十四年十月二日付けの北国新聞でも大きく報道されたものです。

三年前に金沢市からゴミ集積場や周辺の美化が良いとの事で「環境美化推進功労者」としての団体表彰を受けました。住民のまとまりも良く、管理組合と協調し「金沢のマンションの模範」に更に努力したいと思えます。

（活動状況）

昨年のマンション大型修繕工事で外観も美しくなり、今年に入ってから八戸の室内リフォームが始まり新品同様のところもあり、新婚世帯も入居され、ベビー誕生など一段とにぎやかさ、活気が増しています。夏には恒例となった「イトピアまつり」を玄関前で開催し、多くの

参加者で

ビールを片手に、カラオケ大会、花火大会等夕べのひとときを楽しみ、住民から喜ばれています。

又、入居者の高齢化に伴い、二年前に健康を大切にとの観点からエレベーター前に「AED」を導入しました。定期的に「健康講座」や「AED講習会」等開催しており、住民同志の心のふれあいを大切に心がけて活動しています。

（今後として）

集合住宅として老若男女、子供達が住んでいます。近隣関係を良くするため一階の集會室を整備し、二部屋にしました。子供会、女性会等に活用する場としてのコミュニケーションづくりを広めたいと思います。

まだまだ諸行事への参加は少なく、更に對外活動の場を広げる事を念頭に進めたいと考え、モットーに居住者の「和」「輪」の連帯を重視したいと考えます。将来に向けて役員一同、心を合わせ、より積極的な町会内・外活動及び防災活動に取り組める町づくりを努めたいと思います



神宮寺町みどり町会

小坂公民館が創立して平成二十四年でまる六十周年式典を迎えるとの事で本当におめでとう御座います。歴代の館長さんを始め、運営に携わって来られた方々に心よりお礼とお祝いを申し上げます。

さて、私も神宮寺町みどり町会も昭和五十六年にオリエンタルチェーンの跡地に住宅会社五社が共同で土地と住宅を併せて販売し、当時は十世帯用の各住宅会社が展示用住宅を建てての街づくりとなりました。

当時は、「サングリーン神宮寺」の名前で四十五世帯分の販売をしたとの記憶があります。その後、住宅が建築され当然の事ながら生活をするためのゴミの収集問題等が浮上し、初代会長を務めた村松松雄さんを中心に有志の方々の努力により、市役所を始めとする関連先にも要望するなどして、現在の「神宮寺町みどり町会」が発足致しました。私は三代目の町会長ですが、村松さんはまる二十七年間務めた事もあって、次期町会長を選任するのに時間がかかりましたが、三十周年を迎えるに当り、私が設立時から「神宮寺町みどり町会」に居住していた事から引き受けることを約束し、その間二代目会長を受けて頂きました。織田様には、本当に有難うご

ざいました。町会のお世話をすることは、自分が引き受けて初めて片手間では絶対出来ない仕事である事を認識させられました。これからも班長さんを始め町会の皆様方とのコミニケーションを取りながら、町会のために尽力すること、その気持ちが必要だと思っております。今後、小坂公民館は六十周年、神宮寺町みどり町会は三十周年を一つの節目としてそれぞれが益々発展するよう祈念するとともに、私の体験を次期町会長さんに更に繋がるようにがんばって行きたいと思っております。



ゆいの里町会

名実ともに「ゆいの里」を目指して

町会が「ゆい」（広辞林：田植えなどのとき、互いに雇われ力を貸すこと）の名を冠し結成されたバロメータかな？と申しますと、「元気な子供や若い親が多い町会はその当たり前や。」「自慢話もほどほどにしておけ！」とお叱りを受けるかも知れません。

町会員八九三名の構成は、小学生が約十七%（二五〇名超）・高齢者（六十五歳以上）約四、五%等で、確かに子供や若い親世代が圧倒しており、社会体育大会ではいつも子供たちがその立役者であることから、ご指摘・お叱りあっても最ものことと思っております。

いつの時代も、活力ある町の主役は子供たちですが、当町会の現況として、社会体育大会に限らず、夏祭りの子供山車による盛り上がり、大勢の子供が参加する夏休みラジオ体操の壮観さ、ボーリング大会や公園除草活動に親子で参加する睦まじさを見るにつけ、また街角・公園に毎日響き渡る子供の歓声を聞くにつけ、その思いを実感しています。



当町会が今日あるは、町会連合会、公民館及び隣接町会のご支援のおかげと感謝しつつ、この元気な町が常しえに続くよう、若者が定住する町づくりを目指しています。

それに向け、中心となる地域コミュニティセンターの整備を始め、役員会員一同は、融和し支えあう「ゆい」の精神を町づくりの伝統として育て、この元気な子供たちを安全に健やかに盛り立て、定住を願い、孫子の世代の「ふる里」として誇れる名実ともに「ゆいの里」をめざし更に努力すべく決意を新たにしているところです。

ガーデンシティ東金沢町会

「子育ての街を目指して」

当町会は、ガーデンシティ東金沢地区に居住する約五十世帯と、小坂ガーデンシティ地区に居住する約二十世帯、一人（マックスバリュ東金沢駅前店）からなる、新設の町会である。

設立は、榊本住宅の山内邦裕氏が発起人として、町会設立準備委員会が立ち上がったことに端を発する。

コミュニティアドバイザーの青海康男氏を迎え入れ、町会設立準備委員会の中から初代町会長に黒瀬望氏が選出された。ゼロから当町会の運営に

関する骨子案がまとめられた後、二〇一〇年六月に開催された町会設立総会にて、当町会が発足した。程なく、小坂校下連合町会への新規参加が決定し、更に、翌年七月には、小坂ガーデンシティの住人が当町会へ新たに加入し、現在に至っている。

当町会は、働き盛りの三十代、四十代が多くを占めており、小学生以下の子どもを持つ家庭も多数、見受けられる。そこで、「子育ての街」いう大きな目標を掲げて、町会の運営に臨んでいる。

また、斬新な試みとして、①メールنگリストの使用（メールにて、町会内外の



情報を瞬時に住民に伝達）、②HPの開設、③USB回覧（画像や動画を各家庭に回覧）、④清掃活動、⑤出産祝金の贈与、⑥ゴミ当番の撤廃が挙げられる。

当町会は新設の町会であるが故、今後も様々な切り口、自由な発想で、地域社会を成熟させることが可能な町会である。そして何より、子ども達の成長を皆で見守る、暖かみのある町会でありたいと願っている。

アテリア鳴和町会

はじめまして。

二十三年度より新しく仲間入りさせていただきましたアテリア鳴和町会です。

当マンションは、平成十九年九月に鉄筋コンクリート六階建て総住戸七十五邸で建設されました。

最初は少なかつた入居者も徐々にふえて、年間に何件かの入れ替わりはあるもののほぼ満室の状態となりました。子供の人数も多くなり校下のいろいろな行事に参加させてやりたいというのが、町会発足のはじまりでした。

発足前二年間はお隣の東金沢町会様にお世話になり、いくつかの行事に参加させていただきましたが、今年度は単独で社会体育大会に参加するにいたしました。

当マンション自体も四年というまだまだ未熟な町会ですが、夏の納涼会、年明けには新年会と入居者同士コミュニティションが図れるよう行事を計画し、町会としても成長していきたいよう努力していきたいと思えます。



小坂公民館略年表 1

平成十四年（二〇〇二）

- ・第六代館長 石見義之氏退任、第七代館長 谷村昭雄氏就任
- ・小坂社会文化センター改修建設委員会設立
- ・耐震補強工事完成
- ・館内各室禁煙開始
- ・第二十七回金沢市民ソフトボール大会優勝

平成十五年（二〇〇三）

- ・公民館経理のパソコン化決定
- ・下水道工事完了

平成十六年（二〇〇四）

- ・小坂公民館ホームページ創設
- ・「おはよう」あいさつ運動開始
- ・ニユーススポーツ町会対抗に「キンボール」初採用
- ・一階トイレバリアフリー化改修工事完了

平成十七年（二〇〇五）

- ・ニユーススポーツに「フレッシユテニス」導入
- ・小坂社会文化センター屋上放水設備改修工事完了
- ・第三十回金沢市民ソフトボール大会優勝

平成十八年（二〇〇六）

- ・敷地内禁煙開始
- ・「飲酒運転四ない運動」開始



東金沢駅移転

・ゆいの里町会誕生

・金沢経済大学から金沢星稜大学へ名称変更、大学院を創設

・初の日朝首脳会談で金総書記「拉致」を謝罪、被害者五人が帰国

・学校完全週五日制開始

・小坂小学校創立百三十周年

・市長選で山出 保氏四選

・小坂小学校 新体育館完成

・阪神、十八年ぶりリーグ優勝

・県議選で中村勲氏・米澤賢司氏初当選

・市議選で田中 仁氏四選・村池敬一氏再選

・御所新橋完成

・新潟県中越地方で震度七の地震、死者四十人

・アテネ五輪で金メダル十六個、総数は史上最多

・金沢21世紀美術館開館

・新幹線工事 富山～白山総合車両基地間起工式

・衆院選で自民圧勝、郵政民営化法成立

・JR福知山線で脱線事故、一〇七人死亡

・金沢駅東広場完成

・徳田秋声記念館開館

・小坂スクールサポーター隊発足

・知事選で谷本正憲氏三選

・金沢外環状道路（山側幹線）供用開始

・小泉内閣から安倍内閣に変わる

・児童相談所を教育プラザ富樫に開設

・金沢能楽美術館開館

・小坂消防会館完成

・市長選で山出 保氏五選

小坂公民館略年表 2

平成十九年（二〇〇七）

- ・ コーラスサークル「コールこさか」発足
- ・ 小坂社会文化センター外壁軒裏改修工事完了

平成二十年（二〇〇八）

- ・ 「金沢市グッドマナー宣言」に公民館関係十二団体協力
- ・ 小坂校下歩こう会発足
- ・ 小坂社会文化センター非常階段等塗装工事完了
- ・ 石川県知事から豊かな心を育む教育推進感謝状受賞

平成二十一年（二〇〇九）

- ・ 地域コミュニティ活性化（子供交流）事業受託
- ・ 小坂社会文化センター二階トイレバリアフリー工事完了
- ・ インフルエンザ対応委員会設置
- ・ 館報「こさか」第一号発刊

平成二十二年（二〇一〇）

- ・ 一階和室エアコン設備改修工事完了
- ・ 二階ホール音響設備改修工事完了
- ・ 小坂つ子夏まつりで神谷内・御所・小坂の三獅子舞保存会が演技競演

平成二十三年（二〇一一）

- ・ 堀田聡子主事採用
- ・ 二階学習室エアコン不良取替え工事完了
- ・ 第十九回市民グラウンドゴルフ大会初優勝
- ・ 第三回市民ソフトボール大会四十歳以上部優勝
- ・ 金沢市公民館対抗市民スポーツ大会 総合優勝

-
- ・ 能登半島地震発生
 - ・ 安倍首相辞任、福田内閣誕生
 - ・ 参院選で自民、歴史的敗北
 - ・ 金沢市観光会館が金沢歌劇座と改名
 - ・ 県議選で中村勲氏・米澤賢司氏再選
 - ・ 市議選で田中 仁氏五選
 - ・ 疋田上荒屋線 三池―高柳間開通
 - ・ 市教育長石原多賀子氏退任、浅香久美子氏就任
 - ・ 浅野川水害発生
 - ・ 福田首相辞任、麻生内閣誕生
 - ・ 松井秀喜MVP獲得・ヤンキース世界一
 - ・ 近江町いちば館全面開業
 - ・ 衆院選で民主三〇八議席の圧勝、歴史的政権交代で鳩山内閣誕生
 - ・ 裁判員制度スタート
 - ・ 東金沢町会子供会『全国ラジオ体操表彰』受賞
 - ・ 知事選で谷本正憲氏四選
 - ・ 石川県厚生年金会館が本多の森ホールと改名
 - ・ ガーデンシティ東金沢町会誕生
 - ・ 市長選で山野之義氏当選
 - ・ 鳩山首相辞任、菅内閣誕生
 - ・ チリで落盤事故発生
 - ・ 県議選で中村勲氏・米澤賢司氏三選
 - ・ 市議選で田中 仁氏六選
 - ・ アテリア鳴和町会誕生
 - ・ 北安江高架橋 開通
 - ・ 東日本大震災 三月十一日発生
 - ・ なでしこ女子ワールドカップ優勝
 - ・ 野々市市誕生

歴代館長名簿

谷村 昭雄

平成14年4月1日～

歴代副館長名簿

松井 清明

平成5年4月1日～平成15年3月31日

小嶋 外志夫

平成8年4月1日～平成20年3月31日

竹川 操枝

平成8年4月1日～

長谷川 弘洋

平成15年4月1日～

田中 邦夫

平成21年4月1日～

歴代児童館館長名簿

延村 茂憲

昭和62年6月1日～平成16年3月31日

棒田 剛

平成16年4月1日～平成23年3月31日

棒田 正二

平成23年4月1日～

歴代主事名簿

北本 節子

平成13年4月1日～平成22年12月31日

堀田 聡子

平成23年1月1日～

歴代事務員名簿

小坂 恭子

平成13年4月1日～平成15年7月31日

千田 志津子

平成15年8月1日～

歴代各部長

平成14年

総務	小嶋 外志夫
文化	山田 耕一
体育	田中 邦夫
青年	村上 豊
女性	町田 由美子

平成15年

少年	田丸 喜博
総務	辻村 秀克
文化	山田 耕一
体育	田中 邦夫
青年	中村 徹也
女性	町田 由美子
少年	田丸 喜博
総務	辻村 秀克
文化	山田 耕一
体育	田中 邦夫
青年	中村 徹也
女性	町田 由美子
少年	田丸 喜博
総務	嶋野 次郎
文化	山田 耕一
体育	田中 邦夫
青年	矢木 俊次
女性	町田 由美子
少年	米沢 邦明
総務	嶋野 次郎
文化	山田 耕一
体育	田中 邦夫
青年	矢木 俊次
女性	町田 由美子
少年	嶋野 次郎
総務	山田 耕一
文化	山田 耕一
体育	田中 邦夫
青年	矢木 俊次
女性	町田 由美子

平成18年

平成17年

平成16年

平成22年				平成21年				平成20年				平成19年					
広	体	文	総	少	女	青	広	体	文	総	少	女	青	体	文	総	少
報	育	化	務	年	性	年	報	育	化	務	年	性	年	育	化	務	年
田	西	山	棒	米	加	矢	田	田	山	棒	米	加	矢	田	山	嶋	米
畑	村	田	田	沢	藤	木	畑	中	田	田	沢	藤	木	中	田	野	沢
美	隆	耕	正	邦	幸	俊	美	邦	耕	正	邦	幸	俊	邦	耕	次	邦
貴	幸	一	二	明	子	次	貴	夫	一	二	明	子	次	夫	一	郎	明
子	幸	一	二	明	子	次	子	夫	一	二	明	子	次	夫	一	郎	明

平成15年	歴代運営審議会委員																平成23年			
駒	神	喜	土	延	山	田	中	山	村	駒	少	女	青	広	体	文	総	少	女	青
崎	谷	多	田	村	内	中	村	田	松	崎	年	性	年	報	育	化	務	年	性	年
稔	てる子	栄子	満	憲	喜代志	仁	勲	雄	松	稔	米	加	矢	宇	西	津	棒	米	加	矢
石	能	長	中	小	神	米	神	清	石	石	沢	藤	木	野	村	田	田	沢	藤	木
田	沢	田	村	坂	保	澤	谷	谷	田	田	邦	幸	俊	公	隆	祐	正	邦	幸	俊
一	文	竜	恵	金	外	賢	怡	暁	一	明	明	子	次	子	幸	子	明	子	次	次
明	栄	夫	次郎	行	巳雄	司	博	外	明	明										

平成17年				歴代運営審議会委員																平成16年			
田	中	野	村	駒	宮	寺	棒	延	神	田	中	野	村	駒	竹	百	中	小	東	田	中	野	村
中	村	川	松	崎	野	田	田	村	保	中	村	川	松	崎	川	々	村	坂	武	田	中	村	川
仁	勲	紀	雄	稔	泰	昇	剛	憲	外	仁	勲	紀	雄	稔	操	和	恵	金	美	仁	勲	紀	雄
神	米	村	松	石	竹	百	中	小	東	村	米	村	松	石	村	宮	村	延	山	神	米	富	松
保	澤	上	本	川	川	々	村	坂	武	池	澤	上	本	田	上	野	池	内	保	澤	利	本	明
外	賢	清	明	公	操	和	恵	金	美	敬	賢	清	明	田	裕	泰	敬	喜	外	賢	男	明	明
巳	司	造	明	文	枝	弥	次郎	行	美	一	司	造	明	美	美	之	一	代志	巳雄	司	男	明	明
雄	司	造	明	文	枝	弥	次郎	行	美	一	司	造	明	美	美	之	一	代志	巳雄	司	男	明	明

公民館表彰関係
平成十四年度～平成二十三年度

永年勤続役職員表彰

平成14年度	小竹 讓	三十一年
	神保 外巳雄	二十五年
	山内 喜代志	二十年
	石見 義之	十五年
	駒崎 稔	十五年
	田中 仁	十年
	町田 由美子	十年
	辻村 秀克	十年
	松井 清明	十年
	寺井 あけみ	十年
平成15年度	延村 茂憲	二十五年
	駒崎 稔	二十年
	村松 雄枝	二十年
	竹川 操	十五年
	中村 勲	十五年
	山田 耕一	十五年
	谷村 昭雄	十五年
	東円 佳子	十五年
	町田 由美子	十五年
	田中 邦夫	二十年
	北川 光夫	十五年
	斎藤 喜代子	十五年
平成18年度	小嶋 外志夫	二十五年

平成19年度

平成20年度

平成21年度

平成22年度

平成23年度

優良役職員(市公連)

平成19年度	小坂 秀行	十五年
	田中 仁	十五年
	寺井 あけみ	十五年
	延村 茂憲	三十年
	駒崎 稔	二十五年
	村松 雄枝	二十五年
	中村 勲	二十年
	竹川 操	二十年
	山田 耕一	二十年
	谷村 昭雄	十五年
	長谷川 弘洋	十年
	北本 節子	十年
	松平 信一	十年
	中本 一雄	十年
	棒田 正二	十年
	米澤 賢司	十年
	田中 邦夫	二十五年
	斎藤 喜代子	二十年
	村池 敬一	十年
	尾畑 克幸	十年
	棒田 剛	十年
	松本 明	十年
平成15年度	山田 耕一	
平成15年度	田中 邦夫	

優良役職員(市長感謝状)

平成16年度	竹川 操枝
平成18年度	町田 由美子
平成22年度	長谷川 弘洋
平成19年度	田中 邦夫

青少年健全育成成功者団体表彰

平成17年度 小坂ミニバスケットボールクラブ

青少年健全育成成功者表彰

平成17年度	百々 和弥 (小坂小PTA)
平成20年度	多賀 信也
平成21年度	籾内 啓志 (小坂イーグルス)
平成22年度	六斗 紀子 (子ども作法教室)
平成23年度	米澤 邦明

社会教育功労者表彰

平成15年度	小嶋 外志夫
平成23年度	田中 邦夫

あとがき

本誌発刊にあたり、山野市長さん、浅香教育長さんをはじめ、多くの方々からご寄稿いただきましたことに関係者一同心から感謝いたしております。

おかげさまで、創立五十周年記念誌に続く近十年間の足跡を六十周年記念誌としてまとめることができました。

いたらぬ編集委員を応援していただいた執筆者の皆さま、写真や資料をご提供いただいた皆さまに厚くお礼を申し上げます。

編集委員代表 田中邦夫



表紙写真

創立六十周年記念式典で一明政行氏（文化部）が撮影しました。

創立六十周年記念誌 こさか

平成二十四年三月二十日発行

編集 小坂公民館六十周年記念誌

編集委員会

発行 金沢市小坂公民館

〒920-0811 金沢市小坂町北三二番地

TEL 〇七六一二五二一三〇六七

印刷 野崎名刺印刷

〒920-0806 金沢市神宮寺三丁目十番二五号

TEL 〇七六一二五一五七九九